

# シワが寄る空間

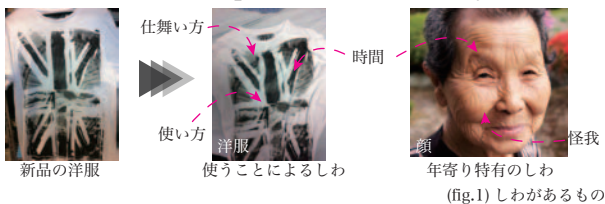
街の拠点となり周辺からしわを寄せる建築

指導教員 吉松秀樹教授 印

9AEB3227 落合 拓也

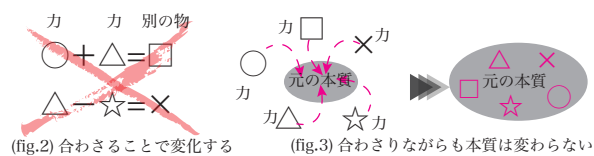
## 1. しわの魅力

服や人の肌出来るしわ (fig.1) は、使い方や時間などの様々な外的要素が混ざり合うことでそれぞれの個性ができながらも位相的に同じである所に魅力を感じた。都市にもそのような「しわ」があるのではないかな。



## 2. しわとは

皺は多方向から力が集まることで力を反発し発生する。力の統合や打ち消しではなく、力が合わさりながらも何処か違う方向に逃げることでできている (fig.2)。また、合わさりながらもそのものの本質は変わらずにある (fig.3)。



### 3-1. 都市のしわ

都市の「しわ」とは 人の在り処であり、街の中心となる所を示すことではないか (fig.4)。それは人の流れ、行動などの外的要因によって作り出されるものである。駅や学校など公共的な建物などにしわが集中してよっているのではないかな (fig.5)。しわである駅の周辺には人が集中し、商店街などのお店が増え、駅との連続的な広がりも考えられる。



(fig.4) 大阪駅



(fig.5) 荻窪の街の拠点

都市のしわが感じられないのは住宅地である。人は通るがそこに住む人だけである。ただ通る道となり、そこにはコミュニティなどはない。特に塀がある住居では、道と住居に境界をつくり住宅からも人がいるのかわからず孤立している (fig.6)。



(fig.6) 塀により分断された空間

### 3-2. 「建築のしわ」

建築にしわをつくることは、外的要素を取り込み設計をすることではないか。それにより内部空間をつくり、デザインは設計者が決めるのではなく周りから決めていくことで、敷地外部との連続性が生まれる (fig.7.8)。

吉島通りの軸にびったり合わせてあり、部屋を分散させ、屋内外に展示を作って都市軸を曲解せず明快に導いた。作品ごとに空間を構成している。

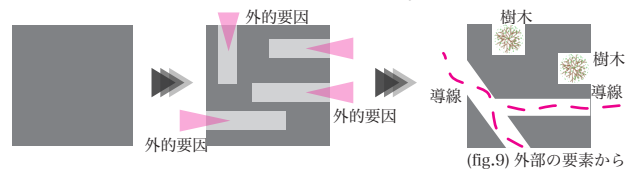


(fig.7) 広島市環境局中工場

(fig.8) 十和田美術館

### 4. 外部を引き込む空間

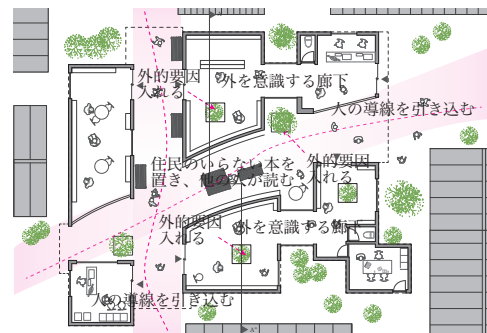
周辺の外的要因を引き込みながら内部空間を構成することで外部との連続性をつくる (fig.9)。



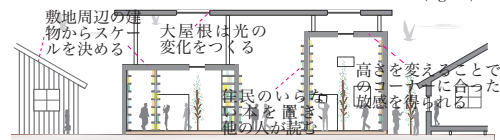
(fig.9) 外部の要素から

### 5. 周辺から成り建つ小さな図書館

敷地周辺の要素取り込み、空間に連続性が生まれる図書館を設計する。いろんな人に対応するためそれぞれの空間に変化を加えながらもひとつの連続した空間を設計する。人や季節などが入り変わることで建築の形態、使い方が変化し感じるものとする (fig.10.11.12)。



(fig.10) Site plan



(fig.11) Section



(fig.12) 模型写真